

# ひろびろとしたお家で のびのび子育て

～住宅取得・リフォームの補助事業編～

三島市では、子育てしやすい環境をつくるため、住宅の取得やリフォームに対し補助を行っています。そこで、補助制度を活用し中古住宅を取得した人に住宅購入の経緯や子育ての変化などのお話を伺いました。

問：住宅政策課 ☎ 983・2750

## 子育ての変化やメリットはありますか？

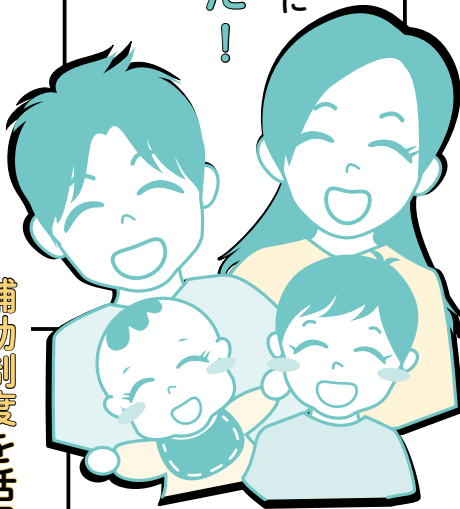
アパートでは、子どもの声や足音などが下の階などに響いていないか心配していましたが、今はその心配がなくなり、伸び伸びと子育てできていると感じています。また、第2子が生まれてすぐに引っ越しましたが、お風呂が広くなって、入れやすくなったのも大きなポイントです。夏は庭で子どもとプールをしたり、バーベキューをしたりと、より楽しみが広がりました。

このほかにも

こんな声をいただきました！

- ・子ども部屋を持つことができた
- ・収納スペースが増えた
- ・日当たりが良くなった
- ・家全体が広くなった

三島市在住の荒木さん(4人家族)に  
お話を伺いました！



## 住宅購入の経緯を教えてください

3年近く住宅の購入を検討していました。金額や広さ、駅からの近さなどの条件をクリアする物件がなかなかなく、時間がかかりましたが、良い物件に出会えました。小学校入学までには決められたので、とても良いタイミングでした。

## 補助制度を活用して 良かった点を教えてください

これまでは、移住者の方だけが対象だったと聞いていましたので、中古住宅を取得した場合は市民でも対象になるというのは、非常に嬉しかったです。また、現在外壁の塗装工事をしていきますが、こちらにも補助金が使えて非常にありがたいです。

## 住宅取得に活用できる 補助制度はこちら！

三島市移住・子育てリフォーム事業



リフォーム工事にかかる費用を支援します

住むなら三島移住・定住サポート事業



住宅の取得にかかる費用を支援します



nobi nobi  
suku suku



# 広島市平和祈念式 派遣中学生参加報告

市では毎年8月6日に行われる広島市平和祈念式に、将来を担う若い人たちが戦争の悲惨さや平和の尊さについての思いを広く伝えられるようになってほしいという願いを込め、中学生を派遣しています。

今年参加した8人の感想文を一部抜粋して紹介します。

感想文の全文



## 『現実』から『平和』を模索する



錦田中学校3年  
松本 隼弥さん

兄の一言がきっかけで広島を訪れ、原爆の恐ろしさを知りました。広島で平和に暮らす人々の日常を一瞬で奪った原爆という「現実」を忘れず、私からの「平和」を模索して生きていきたいです。



南中学校3年  
武藤 知真さん

## 「残された写真」

広島で被爆者の話を聞き、戦争の爪痕の深さを知りました。資料館で見た悲惨な写真の数々は、言葉にできないほど多くの悲しみを物語っていました。今回の派遣によって感じたこと、思ったことを多くの人に伝えたいと思います。

## 「誰のためにもならない戦争」



北中学校3年  
寺澤 愛結さん

平和記念資料館で原爆の悲惨さを目の当たりにし、強い衝撃を受けました。核兵器が依然として存在する中、平和な世界を作るため、広島での戦争の悲惨さ、平和の大切さを、声大にして訴えていきます。



中郷中学校3年  
古屋 里穂さん

## 「記憶を引き継ぎ、伝えていくこと」

1945年、広島に落とされた原子爆弾は、街を一瞬にして地獄に変えました。「忘れられた歴史は繰り返される」という教訓を胸に、派遣を通じて感じたことを多くの人に伝え、戦争、平和について考えるきっかけを作っていきます。

## 「平和と命の尊さを伝える」



北上中学校1年  
銀杏田 望さん

平和記念資料館では原爆や戦争の悲惨さに目を覆いたくありませんでした。また、被爆体験講話では、被爆者のお話に感銘を受けました。日本は被爆国だからこそ、平和の大切さ、命を大切にしてほしいという願いを伝えていきたいです。



中郷西中学校3年  
山下 うのさん

## 「広島を後世へと語り継いでいくこと」

焼けた三輪車やボロボロの制服から、当時の恐怖や悲しみに心が痛みました。被爆者の方のお話からは平和を願う強い想いを感じました。広島から目を背けず、声を上げ、行動を起こすことが、世界の平和につながると思います。

## 「真の世界平和を実現するために」



山田中学校3年  
萩原 優奈さん

資料館で見た惨状と被爆者の言葉から、日本に原爆が落とされたことを再認識しました。戦争から79年たった今も戦争や核問題は存在します。被爆者の方々の意思を継承し、真の世界平和に向けて身近なことから行動していきたいです。



日大三島中学校2年  
渡辺 愛菜さん

## 「被爆体験講話をきいて」

被爆者の方の「同じことが2度起きないように命を大事に」という言葉に胸をうたれました。原爆で亡くなった人の分まで、自分の夢に向かって勉強していきたいです。そして広島で学んだことを世界に発信できる人間になりたいです。

